

# 賑わい創造政策形成研修 (商工会議所青年部と協働で賑わいを考える)

上尾市総務部職員課 吉永 広樹

## 1 研修の目的

市の抱える課題を職員自ら発見し、その課題の解決に向けて政策を立案するプロセスを習得する政策形成研修については、これまでも階層別研修や行政課題グループ研修で実施していましたが、このたび、職員と上尾商工会議所青年部有志との協働による政策形成研修を初めて実施することとなりました。

そして、昨今の自治体共通の悩みである駅周辺の活性化・賑わい創造をテーマに政策を研究開発することとなりました。

本市でも近年、JR上尾駅を中心とした中心市街地に空き店舗が見受けられるようになり、その活用方策が市の政策課題として浮上するようになりました。また、商工会議所の中でも、駅周辺商店街の活性化とともに駅周辺の賑わい創造が喫緊の課題として捉えられるようになってきました。

さらには、平成23年2月のJR上尾駅改修に伴い自由通路が拡幅され、新たに創出された公共空間の活用方策が、市の顔、街づくりの核として検討されることとなりました。

本市では、これまでも観光協会や商工会議所、JAあだち野農協と協働し、「あげお朝市」や「キラリ“駅de(で)ほっと市(いち)”」などと題した市内の農家による農産物直売や手作りまんじゅう販売などの賑わい創造イベントをJR上尾駅自由通路の公共空間を活用して実施してきましたが、一時的な賑わいの創造にとどまっていました。

このようなことを背景として、「日常でも同じように人の往来を増やし、賑わいを創出するためには

どうすればよいのか。」「他市にあるような施策ではなくて、本市の特色や地域資源を活かして、本市独自のまちに賑わいと活力を促す取組みを創出したい。」との思いから駅周辺に賑わいを創出する施策を考える政策形成研修を上尾市商工会議所青年部と協働実施することとなりました。

## 2 活動概要

本研修は職員11名、上尾商工会議所青年部8名の計19名を2グループに分けて、各グループで賑わいを創出する政策を提案するという方法で行いました。

期間は、平成23年8月から平成24年2月まで、全体講義2回と各グループに分かれてのグループワーク、先進事例の視察等を行い、政策提案書としてまとめました。

### ・開講式・第1回全体講義【平成23年8月】

「まちづくりのノウハウについて」

NPO法人柏ソーシャルキャピタル協会

専務理事 藤田とし子氏

### ・第2回全体講義【平成23年11月】

「人と地域を元気にする仕事術」

元農林水産省大臣官房政策課

企画官 木村俊昭氏

### ・政策提案書の提出【平成24年2月】

### ・報告会の開催(市長、会頭出席)【平成24年4月】

### ・その他各グループでグループワーク、視察等



報告会の様子



視察の様子

研修生は半年という短い期間での活動でしたが、2つの政策提案をしました。

一つ目は「チャレンジショップ事業」と題し、空き店舗を活用した販創の仕組み作りについて、二つ目は「あげお駅前コンシェルジュ」と題し、様々な情報や活動の場を提供するお世話係の設置についての提案でした。

研修の締めくくりとして、上尾市長をはじめとする本市幹部職員や上尾商工会議所会頭、商工会議所幹部職員の参加のもと、政策提案を発表する機会を設け、研修生のモチベーションを高め、責任感と達成感を持たせる取組も行いました。

### 3 チャレンジショップ事業

本提案は、職員5名、商工会議所青年部4名の計9名で検討をしたものです。メンバー間で本市の「強み」や「弱み」、「販創とは」について価値観の共有を図り、空き店舗を活用した起業支援について提案をしました。

以下、提案書から抜粋します。

#### 3-1 本市の現状と将来像

この研修を進めるに当たり、メンバー一人ひとりが本市の「強み」と「弱み」を考え、共有することにしました。このような分析をする場合「弱み」を克服する方策を考えがちですが、そうではなく、「強み」を生かし「弱み」を和らげる方策を考えるという共通認識ができました。

次に、「上尾をどのようなまちにしたいのか」について意見交換を行いました。メンバー全員が人を呼び込み、集まる流れを作ることで「賑わい」のあるまちにしたいと考えていることが分かりました。

また、意見交換の場で「上尾は便利で住みやすいまちであるが、地元の情報を知る場や仲間を探し集える場が少ない。」との市民の声があることを知り、市民だけではなく、本市を訪れる人々が思わず足を運んでみたくなるような、気軽に楽しめる場所を作ることで「賑わい」が生まれるのではないかと考えました。

さらに「『賑わい』とはどのような状態なのか」について話し合いました。その結果、「賑わい」とは、イベントなどで人が集まることに限らず、日常生活の中で、自らの意思によって人が集まり生じるものであること、また、「飲む」「食べる」「買う」という消費活動（経済活動）を伴うことにより促進されるものであることと定義しました。

このように意見交換を重ねることで、空き店舗を活用し起業支援や市民活動の発表の場とすることで「賑わい」を創造できるのではないかと考えました。そして、そのような取組をしている先進的な団体を視察し、現状と課題、今後の展望について考える機会を持ちました。

視察で分かったことは、本市で「賑わい」を創出するためには、以下の3点が必要不可欠であるということでした。

- ① 熱意ある「人」

→興す、継続する、人を惹きつける力のある人

## ② 事業に有効な「物」

→場所や資材の確保

## ③ ビジネスとしての「金」

→経営感覚と資金繰り

また、行政や商工会議所が主体となる事業ではなく、市民全体で、かつ地域と連携した事業でなければならないということが分かりました。

### 3-2 事業概要

これまでの検討や意見交換から「チャレンジショップ事業」を提案することとなりました。

#### (1) 事業の内容

「チャレンジショップ事業」とは、空き店舗を利用し、以下の事業や支援を行うことです。

- ① 空き店舗対策
- ② 上尾市内での起業支援
- ③ コミュニティスペースの確保

チャレンジショップ事業を空き店舗で行うことで、空き店舗を解消し、新たな人の流れと地域の人が気軽に集える場所を作ります。そして、地域密着型店舗を目指すことで、上尾を拠点に活躍する人の育成が図れると考えました。

#### (2) 出店の対象および条件

- ① 出店場所はあらかじめ定められた場所とする
- ② 原則、業種及び業態、経営主体は問わない
- ③ 広く全国から募集する
- ④ コミュニティスペース部分を設けること

より多くのアイデアを集め、単なる店舗経営ではなく、地域の人々が気軽に集える魅力ある地域密着型店舗を目指すための条件を考えました。

#### (3) 出店者のメリット

- ① 初期費用等の補助
- ② 出店期間は一年以上
- ③ 行政と商工会議所からの継続的支援

地域に根付いた店舗を目指すための支援条件を考えました。

以上の事業を実施することにより、「自分も出店してみたい」「まち歩きが楽しくなった」「いろいろな人とつながりが持てた」と感じてもらえるようになれば、本市の「賑わい」を創出することにつながるものと考えます。

### 3-3 まとめ

「チャレンジショップ事業」を行うに当たっては、事業内容の検討だけではなく、空き店舗情報の整理や地域ニーズの把握、地元商店街との調整なども必要です。

また、事業の効果測定や管理体制なども検討する必要があります。

事業の効果を定量的かつ短期的にとらえることは必要ですが、この事業の実施により、継続的かつ中長期的な支援や育成を行い、次世代につなげるこそが重要であると考えています。

同時に、人の信頼関係をいかに築くか、何事もその場限りではなく根気強く継続し、いろいろな人が協力しあいながら、後進につなげる努力が必要であると考えます。

## 4 あげお駅前コンシェルジュ事業

本提案は、職員6名、商工会議所青年部4名の計10名で検討をしたものです。

“賑わいの主役は誰なのか”、“イベント等局所的・単発的な賑わいではなく、継続的かつ市域全体へ及ぶような賑わいを創出するにはどのようなものが必要なのか”、“駅に必要な機能は何か”などの議論を通じて市民のやりがい、生きがい創出やそれに関わる人々の思いについて提案を行いました。

以下、提案書から抜粋します。

### 4-1 本市の現状と課題

平成22年度版の「統計あげお」における本市の事業所数分類（平成18年現在）を見ると、上位で半数以上を「卸売・小売業」、「サービス業」、「飲食

店・宿泊業」が占めています。この統計から本市における商工業が現在の社会情勢に影響を受け、非常に厳しい状況にあることが伺えます。

また、半数を超える事業種の要として存するのが、JR上尾駅を中心とした中心市街地です。しかし、近年は、中心市街地であるにもかかわらず空き店舗が増え、大規模店舗であったキンカ堂も閉店し、中心市街地としての活気が減少傾向にあります。

平成23年2月にリニューアルしたJR上尾駅は、駅機能の充実と本市の顔としてのデザイン、スタイルの向上がなされ、新たな中心市街地のシンボルとなったところです。

このシンボルとなった駅が、中心市街地の活性化につながり、本市の賑わいの回復への核となることが望まれています。加えて、現在の駅機能として不足しているインフォメーション機能の創設もニーズの高いところとなっています。

## 4-2 事業概要

住民が主体となって本市を盛り上げるための事業を展開する団体「あげお駅前コンシェルジュ」の設置を提案します。

同団体は、市内の商店等を紹介・案内する案内所として設置されたコンシェルジュブース「(仮称)あげっと」の運営と、駅自由通路での出店「(仮称)もりあげっと市」の管理運営を中心に行います。

「あげお駅前コンシェルジュ」は、様々な情報や活動の場を提供することにより、市民一人ひとりが本市で楽しく暮らしていけるように総合的な“お世話係”を務める団体です。

(1) コンシェルジュブース～(仮称)あげっと～

ただ尋ねられたことを案内する単なる「総合案内」ではなく、来訪者や市民のニーズを把握し、一歩踏み込んだ情報の提供を行います。「(仮称)おもしろマップ事業」として市民サークルを中心とした生涯学習やサークル活動の場を紹介することにより、市民同士の情報交換のツールとしての役割も果たし

ます。同団体がマップの作成依頼と設置を行うとともに、市内商工業の発展と運営資金の確保のため有料の広告設置業務も行います。

マップの設置事業は、「おすすめランチマップ」「上尾ラーメンマップ」「上尾お酒処マップ」等を設置することで、市内商業の活性化を促すことを目的としています。

また「おもしろマップ事業」は、市内の学生や各種サークルへマップの作成を依頼し、子育てママ世代による情報発信「育児サークルマップ」や「ママ友公園マップ」、現役引退世代が第二の人生を楽しむための「勉強会・サークル活動マップ」などを設置することです。こうして、自分たちの“まち”をより身近に親しみを持って楽しめるようにすることが目的です。

さらに、同事業の中で、次世代の市民となる世代が地元への愛着を持てるよう「中学校マップ甲子園」を開催します。



イメージ図

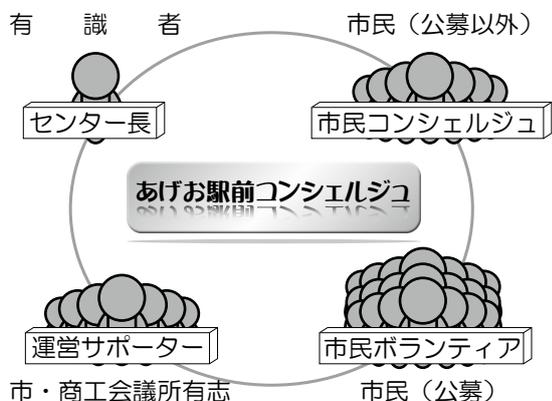
(2) 3 DAYS市場～(仮称)もりあげっと市～

駅自由通路で月に1回(3日間)の出店の管理運営を行います。地元商工業の発展のため既存商店の出店はもちろん、市民の起業意欲を支援するための出店を行います。

出店者は、既存の商店、新規店舗のPRを行い、また、将来の出店を希望する人なども募ります。「自分で作ったアクセサリが売れるかどうか試したい」、資格があるから「ネイルサロンをやってみたい」、主婦仲間「小麦まんじゅうを販売したい」、「フリーマーケットをやりたい」等、夢を持った人々を市民だけではなく他市の住民に対しても提供

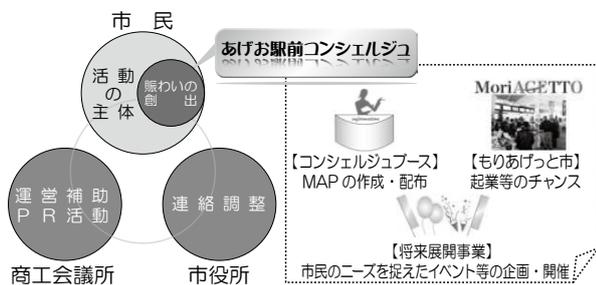
することで「上尾でなら夢がかなう」という視点をもってもらい、本市への興味を深めることにつながります。乗降客の多いJR上尾駅での出店は、市外の住民も本市でチャンスを生かせることのPRにもつながるものと思われます。

『市誘導型の賑わいづくり』では、参加者である市民がお客の立場になってしまうため、単発な賑わいになってしまいます。そこで、恒久的な賑わいを創出することを目的に、市民を中心としたボランティアやサポーターを中心とした市民誘導型の運営組織を構築します。



なお、商工会議所は運営の補助やPR活動を行います。市の関与は連絡調整等にとどめます。

ミーティング（少なくとも1か月に1回開催）等での検討を通じ、より大きくかつ恒久的な賑わいの創出に努めます。



運営組織「あげお駅前コンシェルジュ」は、本市で「何かをやってみたい」「もりあがりしたい」そして何より「元気なまちにしたい」という共通の目的を持った年齢、性別の異なる様々な人の集まりです。彼らの自由な発想を基に「人と人をつなげる」イベントを場所やターゲットを変えて、継続的に発信し

ていくことにより、コンシェルジュのメンバーはもちろん参加者全員が「おもしろさ」や「楽しさ」を感じながら、本市に住むひとたち、また周辺地域に住む人たちに賑わいを届けることができます。

### 4-3 まとめ

当事業は、運営組織をNPO法人などとして法人格取得も視野に入れ検討を進めています。

市民と市が地元商工業者の協力のもとに一体となってブース運営を進めていく体制を作ることで、市民が主役となり、責任をもって自らのまちを未来へ引き継いでくれます。

また、様々な立場で参加することにより、市民同士や行政と市民の横のつながりにも発展し、一時的ではない継続的な市内回遊型の賑わいの創出につながるのではないかと考えます。

## 5 賑わい創造政策研修のまとめ

2つの提案に共通することは、行政中心のイベントなどによる一時的な賑わいではなく、市民が主役となって賑わいを考え実行すること、行政は後方支援に回ることが挙げられます。

これからの市民協働では、“市民自らがまちづくりの担い手”という意識を高めていく取組が必要です。既に、本研修で提案された政策を実現するために、多くの市民に協力をいただきながらNPO法人が設立され、具体的な形として現れています。



報告会の様子

また、今回の研修は、職員と上尾商工会議所青年

部（経営者）が一堂に会し協働で実施した初めての政策形成研修となり、提案施策の事業化につながる取組結果となりました。

これまでの職員のみで行ってきた階層別研修等での政策形成研修では、先進自治体の事例を模倣したような政策提案が多くなり、実現可能性が高く魅力ある独自の提案が少ない傾向にありました。

これは、職員同士の研修ということで、既存の価値観や同じような考え方に影響されてしまい、どうしても一定の枠から越えられないというマイナスの影響があったかと考えます。

しかし、今回の研修では、職員と民間の事業者（経営者）が協働で政策研究することで、柔軟な発

想と広い視野で課題をとらえ、解決を図ることができ、結果的に実現可能性の高い政策提言につながったという大きなメリットがありました。

また、それぞれの違う価値観や意見に触れることにより、新たなものの見方を学ぶことができ、研修生同士の人的交流やネットワークづくりも得られたことも研修の意義として大きなものがあったと考えています。

今後も、他団体の職員との協働政策研修を実施し、研修成果をまちづくりに生かすとともに、職員の視野を広め、新たな政策形成のきっかけづくりとなるような支援をしていきたいと思えます。

## 出典

平成22年度版統計あげお

## 視察先

チャレンジショップ事業

- ①NPO法人くにたち富士見台人間環境キーステーション（東京都国立市）
- ②NPO法人鶴ヶ島市学童保育の会（埼玉県鶴ヶ島市）
- ③NPO法人よろずや余之助（群馬県太田市）
- ④ホッとカフェ（任意団体）（神奈川県横浜市）
- ⑤㈱イータウン（神奈川県横浜市）

あげお駅前コンシェルジュ事業

- ①NPO法人柏市インフォメーション協会（千葉県柏市）